

友の猫

第47号
2013年12月
NPO法人麦の会

題字：かまたみさ

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1 TEL (FAX 兼) 022-299-1279

E-mail muginokai@k5.dion.ne.jp <http://www.muginokai-koppe.com>

みやぎアピール大行動を終えて

飯嶋 茂

みやぎアピール大行動は、今年で7回目になりました。

1割の応益負担を打ち出した障害者自立支援法に反対する声が全国的に高まる中、宮城においても、障害種別の垣根を越え、県内40以上の団体が集まり、年1回の集会とアピール行進を行ってきました。コッペもその活動の一端を担っています。集会には例年300人近くの参加者があり、行政に対しても一定の影響を与えてきました。

アピール大行動の良さは、障害種別を超えて参加者がいることです。一口に障害と言っても一様ではなく、当然それぞれが抱えている問題も違います。アピールに参加していると、そんな問題もあったのだと気付かされることもたびたびあります。

その一つは先ごろ成立した『自動車運転死傷行為処罰法』です。

この法律は、飲酒運転などの悪質運転を厳罰化の対象にしましたが、合わせて持病による事故も厳罰化の対象とされています。

しかし、病気を抱えながらも、治療や生活の自己管理に努力を払い、法律の下運転免許を取得している人はたくさんいます。

具体的な病名は『政令』で定めるとされていますが、病名の特定は差別・偏見を助長する」と関係団体から批判が出ています。

こうした問題は、どちらかという知的や身体の障害のある人と関わりが多い私にとっては、見過ごしてしまいがちです。

みやぎアピール大行動のような活動を継続していくことは難しいことです。それでも続けてこれたのは、他の人たちも私と同じように感じているところが多いからだだと思います。今後ともコッペとして参加していきます。皆様のご協力をよろしくお願いします。

以下、当日のアピール文からの引用です。

『みやぎアピール大行動は、11月4日の開催で7度目となる。震災に見舞われた

2011年にも予定より半年遅れで実施した。毎年300人を超える参加者が集い、県下に於ける有数の障害者によるムーブメントとなっている。

一定の評価のもとに開始された「支援費制度」によって、障害者の生活支援は拡充するかに思われた。「恩恵から権利へ」、永年謳われてきたお題目によりやく現実性を見た途端、3年持たずに破綻させられた。

障害者支援の抑制が目的である障害者自立支援法は、支援に1割負担を課し、サービスの全国平準化の名のもとに、必要な支援を各市町村行政が主導して決めていった。かくて地域間格差は広まった。

確たる理念もなく振り回されてきた障害者たちは団結して声を上げ始めた。「私たち抜きに私たちのことを決めるな!」と。

我々の声は、政権を動かし、障害者が主体となった施策の立案というかつてない成果を得た。

しかし、我々の願いがこもった政策提言も、一定程度法律として結実したが、骨抜きにされてきた面も多々ある。まして先の選挙において、再度政権が交代した。自公政権の復活により、障害者制度改革の進捗が鈍ってきている。その間もみやぎアピール大行動は、一貫して課題提起をし、集会を組織してきた。その原動力となってきた「私たち」の声を今年も高らかにとどろかせたい。「障害者の総意としてまとめられた意見書は、たとえ政権が代わっても生き続ける」(昨年の集会より、佐藤久夫氏)

『障害者基本法』『障害者総合支援法』『障害者虐待防止法』『障害者差別解消法』。制度改革の集中期間において成立(改正)させるとされた法律は出そろった。ゆっくりだが着実に前へ進んでいる。進めたのはくどいようだが「我々の声」である。

自信と誇りと決意を胸に、7回目の街へ出よう。』

私たちは、今日この場に集まった仲間、集えずとも同じ思いを強くもっている仲間たちとともに、ここにアピールする。

記

1、国に対しては、次のことを要望する。

- 障害者総合支援法を撤回すること
- 基本合意にのっとり、骨格提言を尊重した新法を制定すること

2、宮城県及び各市町村に対しては、次のことを要望する。

- 国に対し、障害者総合支援法を撤回し、基本合意にのっとり、骨格提言を尊重した新法を制定するよう、働きかけること
- 障害者権利条約の理念に基づいた障害者差別禁止条例を早期に制定すること
- 地域生活支援事業の拡充をはかること
- 市町村の格差を生じさせないため、県は市町村への強い指導及び支援施策を行うこと
- 障害当事者の意向を反映させた福祉施策の充実に努めること
- 障害当事者のニーズにそった形で、災害時障害者支援体制を充実すること

2013年11月4日

みやぎアピール大行動 2013 参加者一同

『12月7日8日に岩手県盛岡市で行われた「全日本手をつなぐ育成会事業所協議会全国研修大会」で報告した要旨です。』

被災県の事業所の現状について

NPO法人麦の会 飯嶋 茂

東北楽天ゴールデンイーグルス、悲願の日本一、おめでとう！

被災県の事業所は、今この話題で盛り上がっています！？

津波の被害が激しかった地区は、2年以上たった今では「何もない」状態。

「がれき」は片付いてきたが、その後のまちづくりがまだまだ進まない。

【1】 被災の程度が大きかった事業所の状況…私の知る限り

A事業所（社福）仙台 建物全壊 他の施設に間借りして運営。

現在は、市より土地を確保し、新築。

B事業所（NPO）仙台 建物全壊 市内他の場所に移転し再開（賃貸）

C事業所（NPO）石巻 地域活動支援センター 建物全壊

仮設住宅のサポートセンターで再開

（仮設住宅のサポートセンターとはバリアフリー仕様の集会場のこと。仮設住宅の方なら誰でも利用ができ、介護用のユニットバスやトイレも設置されている）

仮設住宅はいつまでもいるわけにはいかない。現在、土地を探しているが、津波の浸水被害が大きかった石巻では土地を探すのも大変な状況。

D事業所（NPO）女川 建物全壊 今年になり、やっと再建。

E事業所（社協運営）山元町 建物被害はなし

県外の支援をうけ新たな製品の開発 エイブルアートカンパニー等
コンテナハウスを利用したコミュニティカフェの開設

主に精神障害の方が対象。

「通って来ている人は大体大丈夫だけど、仮設住宅で以前の住居より狭い空間で生活してたりとか、家族の仕事の内容も変わったりとか、生活環境がかわってしまったことで状態に不安定さが増してしまっている人はいる」と、施設長さんのお話し。

F事業所（社福）南三陸 建物全壊 仮設の作業所で活動

いずれ町有地での再建が図られるが、町全体の再建計画が確定しない為、日時は決定していない

*ほかに南三陸では、児童の支援を行っている2団体が事業化を目指しているが、十分な利用者を確保できずに事業が進まないことを心配する町から調整を求められている

*まちづくりが進まなければ、事業所も前にすすめない

*震災特需が終わった今、改めて事業所の販路の拡大が問われている

*安心して住める住居の確保

*避難の問題

昨年12月7日に震度5弱を記録した地震で津波注意報が出た際、避難する車で再び道路が渋滞。石巻の知人は、「みんな全く反省してないのよ」、と憤慨していた。車での避難

をどうするかも大きな問題。

* 支援する側の障害当事者の中でも体調を崩す人が少なからずいた。安定した支援をどう続けていけるのか。

【2】 訴訟問題

- ① 精神障害の方・・・帰宅を指示されて、海に近い自宅へ向かい、なくなられた
→安全配慮義務違反
- ② 高次脳機能障害の方が、震災時、一時保護されていたグループホームから抜け出し、なくなられた。→安全配慮義務違反、説明義務違反
* 幼稚園、自動車学校でも同様の訴訟が起きている

【3】 避難所

- ① 通常の避難所はいづらい。
バリアフリー・周りの目 みんな大変なんだから同じようにという妙な公平…避難所の運営は、避難している人たちの自治運営。外部の支援者は中々ものをいえない。
- ② 事業所によっては、事業所そのものが避難所になったところもある。
→可能であれば、そのまま福祉避難所として機能してもいいのでは
- ② 福祉避難所の整備も必要
→絶対数が少ない。現在の福祉避難所は行くのにも手続きがいる。人員の問題もある

【3】 仮設住宅

そもそもバリアフリー対応の数が少ない・・・競争率が高くて入れない
スロープだけがある 周りは砂利 玄関が車いすが入らない
内部も使いづらい 風呂狭い 介助の必要な子ども一緒に入れられない
「音」も聞こえやすいことが問題 交通手段の確保も必要
→量・質ともに充実する必要…仮設住宅の標準仕様をどうするのか。
災害公営住宅の整備についても同様

【4】 災害時要援護者の登録も検討する必要

- ① 緊急避難をするための安否確認
 - ② 脱出できないような状況に置かれた人を救助
 - ③ 避難生活も含めて震災後の生活を支援
- * 手上げ方式では漏れがでる。全員登録を勧奨すべきではないか。
* 民生委員・町内会等が、2年前の大震災の際に、障害者の安否確認にほとんど役に立てなかったことを考えれば、今回の震災後に障害者の支援活動をしてきた団体も登録先とする方が、より有効に障害者支援をできるのではないか。
* 震災等の非常時における個人情報提供についての事前に意思確認が必要。

【5】 今回の教訓をどうかしていくのか

- * 阪神淡路路、中越を経ても、繰り返されている問題は何とか解決しなくては
- * 日ごろからの地域でのつながりの大切さ
医療的ケアが必要な重度の障害のあるお子さんが2か月間避難所生活
小中学校は地域の学校へ通う。周りの人の理解。
- * 事業所が地域といかにつながっていけるか

(石川星子「ひびき」の
みんなが研修に交わりました
その報告をFM配信中)

研修に行って

藤永 美夏

2011年3月11日14時46分。東日本大震災が発生したのを知ったのはメンバーを送る車のFMラジオだった。家に帰りテレビをつけると津波で町が流されていく映像がずっと映されていた。

何かできないかと、できたことは少しの募金と家からかき集めたトイレトペーパーなどの生活用品を職場を通じて送ってもらうことだった。その後、順番にボランティアに3名のスタッフが行った。それぞれの報告を聞いていると、現地に足を運んで実際に見たりボランティアをすることで自分の知らない大きなものを得ているような気がして羨ましくも思った。仙台はそう簡単には行ける距離でもなく、そういうタイミングもなく月日が経っていった。

あれから2年半以上が経ち、研修という形で仙台に来ることができた。仙台の街中は高いビルがたくさん建ち、道路も綺麗で大震災があったとは思えない雰囲気だった。しかし石巻に向かっていくと、段々と空き地に雑草が生えたような所が増え、ぼつぼつと残っている家もよく見ると窓ガラスがなく、小さな瓦礫が散らばっていた。車から降りると青い柱に津波の到達点が印されていた。見上げなければならないほどの高さの津波に犠牲になった人たち。どれだけ怖かったことか想像するだけでも心が痛む。少し歩くと、ビデオテープや布団、崩れたブロック塀などあちらこちらにこの場所で生活していたのだと思知らされるような断片が落ちていた。

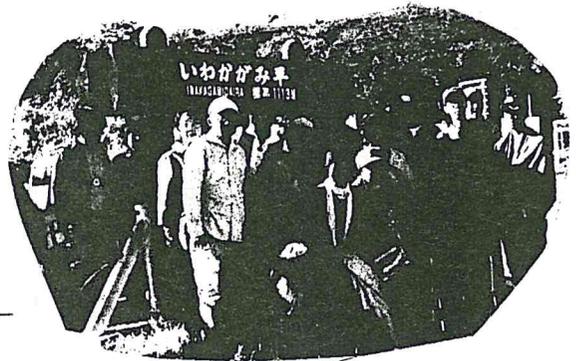
女川でも津波の爪跡をまざまざと見せつけられた。少し上った病院の駐車場から下を眺めながら木村さんの話に耳を傾けた。「すぐ下にある建物の屋上に逃げた人たちは流され、私たちの立っていた病院に逃げた人は助かった。」大川小でも小林さんが教えてくださった「橋の三角洲に逃げた子どもは流されてしまった。裏の山に逃げることもできたはずなのに。」という話には、ほんの少しの判断で生死の分かれ目が決まってしまう怖さも痛感した。

伊勢さんの話には、これから私たちがすべきことをたくさん教えられたように思う。障がいのある人が地域で避難する時に、福祉関係者の助けはもちろん大事だが、地域住民の助けが一番大事だということ。助けてもらう側もスムーズに避難できるように、どこに何があるかしつかりと助けてくれる人に伝えること。近くで安全が確保できるようなところを作っておくこと。わかっているが、地震があってもそこまで揺れないだろうし大丈夫だろうと楽観視していた自分がいた。前に、地震を想定しての県の一斉防災訓練があったがその時もみんなで机の下に潜っただけだった。本当にしなければいけないのは、地域の避難訓練で向かいにある小学校まで避難し、いざという時の動きを確認しなければいけなかったのではないだろうか。今のままではとっさの動きはできないし、大事な判断を誤ってしまうだろう。地域の避難訓練に参加することは労力があるだろうけど、そんなこと言っている場合ではないなと危機感を感じてしまった。また、小学校との連携をどのようにとるのか、どのような形で「すーぶる」を生徒たちにも知ってもらうことができるのか考えていかなければならないと思った。

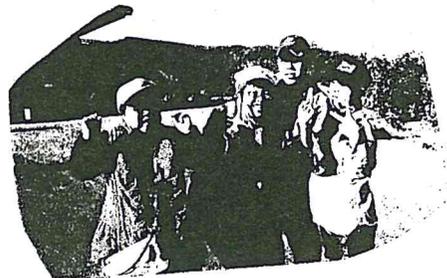
仙台に来てつらい部分も見た反面、実際に行き津波を体験した方々の話をその場所で聞いたことで少しだけかもしれないが想いを寄せることができた。報告を書いている時に石巻の地図を見返すと、小林さんが引いてくれたピンクのラインの道筋と立ち寄る部分に付けられた丸印に、手間をかけて準備してくださったことを改めて実感しありがたく思った。そんな細やかな配慮や、飯島さんを始め私たちに時間を割いてくださった方々から、あの日のことをいろいろな人に伝えたいという思いが伝わってきた。そんな思いを無駄にしないように「ひびき」または「すーぶる」がみんなの命を守るために何ができるのか考えていきたい。

コッペ旅行 阿部央希

コッペ集合(バックおろして置いて)昼です。
皆さんと一糸者におにぎりセットを
食べていました。おいしいです。谷
バスに乗ってゆっくり栗駒へ行ったそして
のんびり昼寝もありました。ゆっくり
このままエラまで少し休憩です。リラックス
してゆっくりと過ごしていました。谷
そのあとはバスは栗駒に入ってハイル
ーゲーム栗駒ホテルに着きました。
荷物をおろして次はバスに乗る
山の見学して坂道
のぼりました。



とてもや、とすばらしい山が見えてよかった
と思、ています。写真も取りました。いいな
次はバスに乗るとハイレーザーゲーム栗駒
ホテルに帰、来ました。荷物を部屋に
おろしてこのあとはプールに入、て
とても楽しく、プールも一番で～す。
温泉に入、とても暖かくなっていい
気持ちいっはいいでした。最高でした。
カラオケ、ゲームなどやりました。番は
カラオケ、とても声もたしていい声、良く
うまくてきってよかったでした。



旅行の思い出 明石澄子

私は、栗駒に行き、とても楽しかったです。着いてからすぐに、バスにのって岩鏡平に行きました。バスから見た景色は、まだ紅葉には早かったけれど、所々赤や黄色の葉が少しづつ見えて、とてもきれいでした。それから、みんなで温泉プールに入りました。私は、泳げなかったため、手すりにつかまって泳いだり、プールの周りを歩いたりました。夜は、みんなで、カラオケをしたり、ゲームをしたりして楽しかったです。私は、また「まさしの舞台宣言」を歌いました。最後に、みんなで、「てんとう虫のサンバ」を歌いました。空気をきれいで、天気にも恵まれて、おいしいごちそうをいっぱい食べたので、とても楽しかったです。

あとがき

☆麦の会では、税の優遇制度が受けられる認定NPO法人格取得を目指して、賛助会員を募集しています。

お知り合いの方などお声掛けをよろしくお願いします。

☆コッペの近くにある和食処「いちえ」さん。年2回お昼にご招待していただいています。ありがとうございます。

☆宮城蔵王すみかわスノーパークの売店にて、コッペのクッキーを取り扱っていただくことになりました。すみかわスノーパークでは樹氷めぐりもやっています。今シーズンは、すみかわスノーパークに行こう！